

# 国際ワークキャンプを今治で

田坂 由衣

日本人2人、韓国人2人、フランス、ベルギー、ドイツ、スイスから1人ずつ、タイ人多数、こんな国際色豊かなメンバーで、タイ南部の田舎の小さな村に滞在したことがあります。緊張や不安も初日だけ。手洗いの洗濯、桶で流すトイレ、英語での生活、タイ語でのあいさつ、バイクに3人乗り……「人生初」をぎゅっと詰め込んだ2週間。これが私の初めて参加した「国際ワークキャンプ」でした。

こんにちは、ゆいと言います。3年前から今治で「国際ワークキャンプ」をやっています。さっきから「国際ワーク

キャンプ」って何？ ですよ。簡単に言うと、世界の仲間たちと行う滞在型のボランティア活動です。日本を含め、世界約95か国、3000か所以上で開催されていて、活動の内容は、森の手入れ、動植物の保護、有機農業の応援、城や寺の修復、学校やトイレの建設、祭りの運営など……受け入れる団体や地域のニ

ーズによって様々。今治では主に子どもたちが参加できる国際交流キャンプやイベントの運営・企画を手伝ってもらっています。

国際ワークキャンプを今治で始めようと思ったのは、冒頭にも書いた刺激的な経験から。子どもと関わる仕事を続けてきた私は、子どもの頃の自分ができなかった、大人になった自分がとびきりワクワクした、そんな体験ができる機会を今治の子どもたちに作りたいと思ったのです。日常を離れて、学校のALTの先生との授業よりも近い関係の中で、育った国や環境の違う人と関わり、活動できる場を……そう考えた時、具体的には子どもキャンプをやりたいと思いました。私の想いに共感してくれる素敵な仲間との出会いや、家族・地域の方々の協力があって、国際ワークキャンプはスタートすることができました。

私たちは、この3年間で3回、日本人も含め世界10か国から19人を国際ワークキャンプに参加するボランティア（ワークキャンパー）として受け入れました。飛行機や電車

を乗り継いで、何十時間もかけてこのキャンプの為だけに来日する外国人メンバーがいるのには驚かされますが、私たちが企画したキャンプやイベントに参加した子どもの人数が、のべ300人以上になったということにも驚きます。それだけたくさんの方が興味を持って参加してくれているということ、とてもありがたく思っています。

さて、私たちの「国際交流」の内容ですが、毎回試行錯誤しています。レクリエーションや遊びを通じた交流、料理や食を通じた交流、海水浴や山登り、竹細工、音楽を使

っての動画作成、海岸清掃……今まで様々な活動を行ってきました。参加する子どもたちの性格や興味・関心も様々で、外国人メンバーとどのぐらい交流できたかもそれぞれですが、「楽しかった！」「また参加したい」という声をたくさんもらいます。子どもたちが新しく何かに興味を持ったり、視野が広がったり、そんなきっかけになればいい



嬉しい限りです。

また、ボランティアスタッフやワークキャンパー、大人も、子どもたちと関わる時間以外の準備や片付け、フリータイムでの観光など、共に時間を過ごしながらか刺戟合っているようです。楽しそうに盛り上がっている様子や最終日の振り返りで「自分のやりたいことを見つけた」なんて言う声を聞くとやってよかったなあ、としみじみ思います。

国際ワークキャンプを開催すること、全てのキャンプやイベントを企画し、子どもたちが安全に楽しく活動できるように準備していくことは、簡単ではありません。でも、参加したいと思う子どもたちがいて、協力してくれる人がいて、みんなの笑顔が見られるのなら、また来年もやりたいと思うのです。今の所は夏のみ開催ですが、他の季節にも違うことをやってみたいという気持ちもあります。ただ、運営スタッフの仕事や生活もありますから、無理のないように。今年もワークキャンプが来たぞ、そう思ってもらえるようになればいいなと思います。